

発行にあたって

入学試験の面接で多くの受験生が、その志望理由として本校の豊かな自然をあげる。何が豊かなのかわかっていないので当然、入学後はただ単に緑の多い学校という漠然とした印象だけが残る。

それでも別に構わないが、わからないよりわかった方が良いに決まっている。季節に鈍感であるよりは敏感であった方が感性的に豊かな人生を送れるに決まっている。豊かな人生を送るつもりがないのにこの学校に在籍しているなら、即刻退学届けを出して、新しい人生を模索すべきである。

季節のうつろいを知る上での素材について、本校は他とは比較にならないほど恵まれている。これを利用しない手はない。

この『四季』は、志木の季節の「うつろひ」に気づくための手助けをするためのものとして発行を試みた。発行責任者が飽きっぽいので年三回の季刊とした。いつまで続くことか。学科枠を超えて、自然環境に造詣の深い先生方にも寄稿いただきながら、できる限り、志木周辺の季節のうつろいを紹介していく。

国木田独歩が愛した「武蔵野雑木林」の面影が色濃く残り、多摩川が形成した扇状地である「武蔵野台地」の末端にある志木市、そして慶應義塾志木高等学校。その特色ある自然の中身、一つ一つに目を向けていただけるようになれば、幸いである。



志木の自然[卯月(4月)～文月(7月)]

この時期の志木高内は、白い花をつける樹木が多い。コブシのように比較的大きなものから、アセビ(馬酔木)やドウダンツツジのように可憐で小さなものまで、実に多くの花をつける。

また、構内の多くのコナラ属の植物(ドングリをつけるものたち)が、4～5月に花を咲かせる。

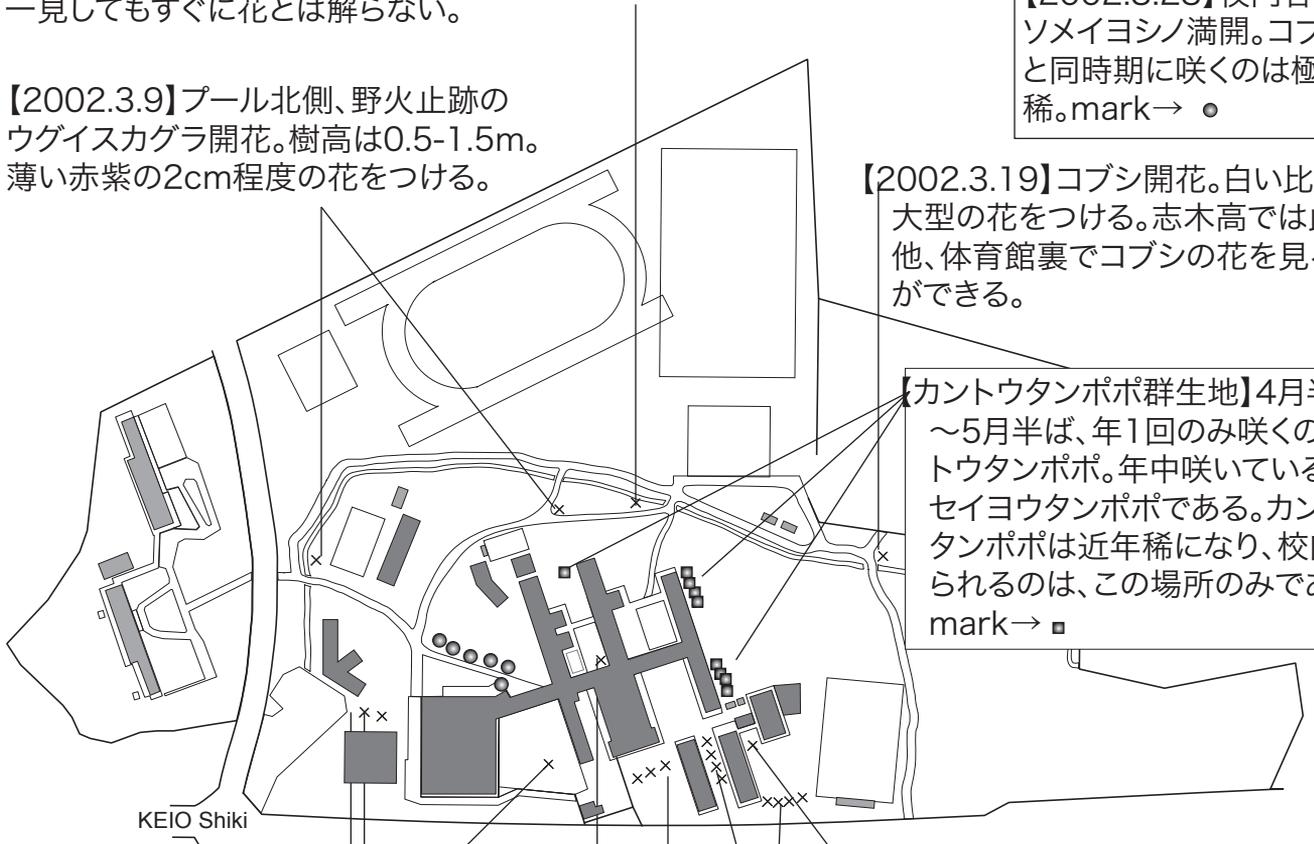
【2002.3.9】イヌシデ[No.9のプレートが付いている]が開花。葉はまだでていない。灰白色の縦じまのある樹で、花は房状のため、一見してもすぐに花とは解らない。

【2002.3.9】プール北側、野火止跡のウグイスカグラ開花。樹高は0.5-1.5m。薄い赤紫の2cm程度の花をつける。

【2002.3.23】校内各所、ソメイヨシノ満開。コブシと同時期に咲くのは極めて稀。mark→ ●

【2002.3.19】コブシ開花。白い比較的大型の花をつける。志木高では此処の他、体育館裏でコブシの花を見ることができる。

【カントウタンポポ群生地】4月半ば～5月半ば、年1回のみ咲くのがカントウタンポポ。年中咲いているのはセイヨウタンポポである。カントウタンポポは近年稀になり、校内で見られるのは、この場所のみである。mark→ ■



【2002.3.3】芝生西側のビワが開花。

【2002.3.28】ドウダンツツジが開花。

【2002.3.9】柔道場横のカンヒザクラ開花。

【2002.3.3】柔道場横のおオヤマザクラ開花。

【2002.2.25】図書館-音楽室間のウメが開花。

【2002.3.28】校内各所、ダイコンソウ、ハナニラ、ムラサキケマン、タチツボスミレが最盛期。

【2002.3.19】アセビ開花。白い小花をつける。

【2002.3.28】レンギョウ、ユキヤナギ、アオキ、アケビ、ニワトコが開花。

【2002.4.5】ヤエザクラ、ヒトリシズカ、シャガが開花。

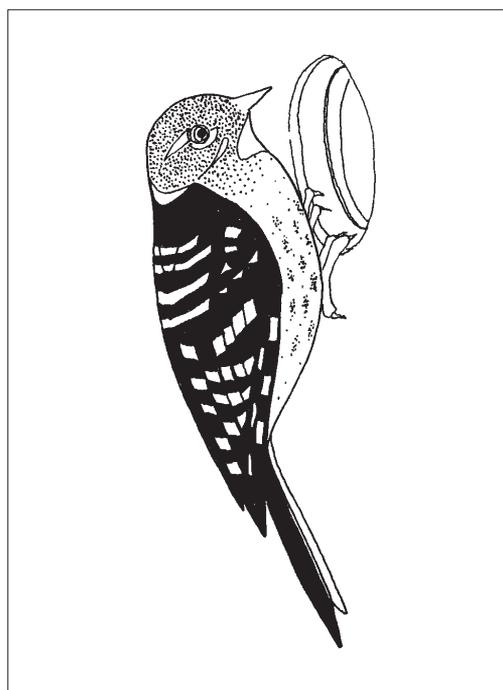
タンポポの生育分布: 井澤 2.25-3.28: 宮橋確認 4.5: 速水確認

この限られた紙面では、どのような植物、動物かをすべてお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館で一度調べてみてください。

【3-4月】校舎とグラウンドの間の林では、ヒヨドリを多く見かける。また、ソメイヨシノなどのサクラの樹をよくみると、メジロが十数羽の群れで訪れていることがある。

コゲラ→

コゲラは、スズメほどの大きさ(体長15cm)の国内最小のキツツキで、樹皮下の昆虫類を主食とする。本校の林の中で静かに耳をすませば、しばしば樹の幹や枝をカツカツ叩く、ドラミングの音を聞こえる



←ツバメ

ツバメの今年の『初認(渡り鳥などの飛来を初めて確認する事)』は、3月18日。額と喉が赤褐色で、尾は二股である。人家、駅構内などの軒下に泥で巣を作る。越冬地は東南アジア。10月頃に再び越冬地に向けて旅立つ。構内での営巣は確認されていない。



【2002.3.20】カルガモ来訪。まだ、定住せず。

【2002.4.1】ほぼ定住。例年、番(つが)いが教員室下の防火用水を訪れ、毎年雛を孵す。2001年度はカラスに巣を襲われ、1992年から続いていた連続孵化記録はストップした。

【2002.3.30】夕刻、コウモリが教員室下防火用水で昆虫を捕食。アブラコウモリだと思うが、確認できず。本校では、春から秋にかけて、夕刻に多数のコウモリを確認できる。

【2002.4.5】カルガモ、ヒヨドリ、シジュウカラ、シメ、キジバト、エナガ、メジロ、コゲラ、ウグイス、アオジ、シロハラ、マヒワ、ツバメ、ハシボソガラスの飛来を確認。

我が性に似たりけるかな雪柳

賢治

くまばちも白藤の香に集められ

衡

八重桜校舎の陰に強く咲く

陽太

元気なきすみれに我を重ねけり

徹馬

水濁り虻が飛び交う志木の池

正人

これらの句は、諸君の先輩達が創作したものです。

俳句の選	本井 英
草本類の調査	井澤 智浩
鳥類の調査	速水 淳子
樹木・小動物の調査[&発行責任]	宮橋 裕司